

操作説明書

Real Color Manager Pro 1.0

色味補正調整 ガンマ補正調整

Windows



ご注意（はじめに必ずお読みください。）

本ソフトウェアによるプロジェクターの調整は、工場調整・設定されているプロジェクター内部の調整をユーザー様によって、ユーザー様の環境に合わせるための調整です。本調整ツールは調整の内容をよく理解され、この調整を必要とされるお客様に提供するものです。したがい、この調整内容にあまり詳しくないお客様、また、調整を必要とされないお客様はこれらの調整を試みないでください。プロジェクターは工場出荷時お客様がご使用になる環境に合わせ最良の状態調整されております。普段ご使用になるうえではこの調整は必要ありません。むやみに調整されたり、誤った調整の操作をされると、プロジェクターの性能が失われたり、プロジェクターの機能が失われる場合があります。調整される場合必ず工場出荷時の調整データを前もってファイル保存されることをお勧めします。あとで工場出荷調整にもどす時必要となります。

本ソフトウェアご使用上の注意

本ソフトウェアをコンピューターにインストールされる際、インストール画面に記されている[使用許諾契約]を必ずお読みください。
本ソフトウェアご使用における、コンピューター等、システム上のトラブル、データの消失、または破損、また、取り扱いを誤った為に生じた機器の故障については、当社では一切の責任を負いません。
コンピューター、記録メディア等に記録されている大切なデータは必ず別のディスクへ保存しておかれることをお勧めいたします。

- * 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することは禁じられています。
- * 本書に記載されている内容は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- * 説明書に記載の図面形状および画面表示は実際のものとは異なる場合があります。

目次

1. リアルカラーマネージャープロについて	
■必要ハードウェアと動作環境	3
■導入と操作の手順	3
2. 準備	
■プロジェクターとコンピューターの接続	4
シリアル接続(プロジェクター1台のみ接続の場合)	4
シリアル接続 (複数のプロジェクターをディジーチェーン接続する場合)	4
■ソフトウェア (Real Color Manager Pro) のインストール	6
3. リアルカラーマネージャーの起動と環境設定	
■リアルカラーマネージャーの起動画面と各部のはたらき	7
■接続環境の設定	9
プロジェクターとの接続設定 (シリアル接続)	9
プロジェクターとの接続設定(シリアルディジーチェーン接続)	9
シリアル接続の設定 (ディジーチェーン接続)	10
接続リストの自動作成	11
接続設定の変更	12
4. 色味補正の調整	
■色味補正の概要	13
■色味補正の起動	13
■調整画面各部の名称とはたらき	14
■色味補正の調整のしかた	17
■保存と呼び出し	19
■出荷設定	19
■終了	19
5. ガンマ補正の調整	
■ガンマ補正の概要	20
■ガンマ補正の起動	20
■調整画面各部の名称とはたらき	21
■ガンマ補正の調整のしかた	23
■保存と呼び出し	24
■終了	24

1. リアルカラーマネージャープロについて

リアルカラーマネージャープロ(Real Color Manager Pro)の概要

リアルカラーマネージャープロはプロジェクターの投影画面の色味の補正、ガンマ補正を行うソフトウェアです。色味の補正、ガンマ補正を、接続したプロジェクターの投影画面とコンピューターディスプレイの表示を見比べながらこれ等を調整することができます。また、デジチェーン接続した複数台のプロジェクターを、これ等接続を介して操作することが可能です。

■必要ハードウェアと動作環境

このソフトウェアは以下のコンピューター環境で動作します。

対応OS	Windows 98SE / Me / 2000 / XP / Vista / 7
CPU/RAM	CPU/RAMは、Microsoft社の各OSのシステム要件を満たしてください。
HDD(ハードディスクドライブ)	10MByte以上の空き容量

■導入と操作の手順

リアルカラーマネージャープロの導入と、操作は以下のSTEP-1→STEP-2→STEP-3の手順でおこないます。各項を参照のうえ、準備と操作を行います。

STEP-1 準備

2. 準備の項参照
- プロジェクターとコンピューターの接続
- リアルカラーマネージャープロのインストール

STEP-2 起動と環境設定

3. リアルカラーマネージャーの起動と環境設定の項参照
- リアルカラーマネージャーの起動画面と各部のはたらき
- 接続環境の設定

STEP-3 調整

4. 色味補正の調整の項参照
5. ガンマ補正の調整の項参照

2. 準備

■プロジェクターとコンピューターの接続

コンピューターとプロジェクターを接続します。

シリアル接続(プロジェクター1台のみ接続の場合)

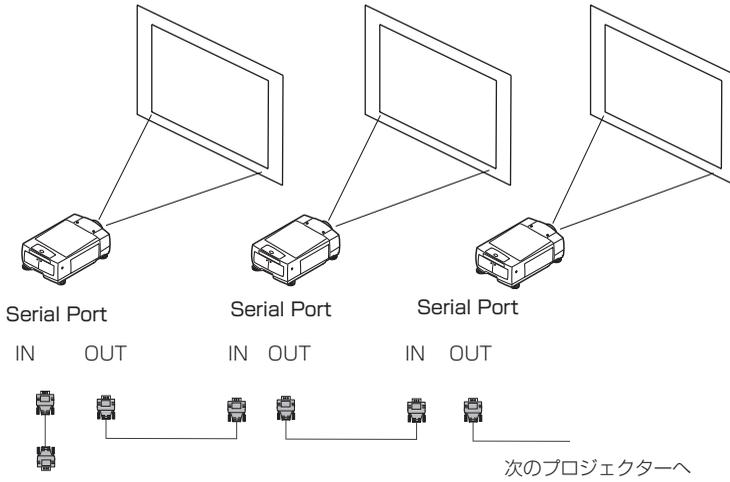
シリアルケーブルでプロジェクターとコンピューターを接続します。

ソフト起動時にプロジェクター一覧表示にチェックがない場合、この方法で接続されているプロジェクターが操作の対象となります。(p10シリアル接続の設定参照)

シリアル接続(複数のプロジェクターをデジチェーン接続する場合)

プロジェクターをシリアルケーブルでデジチェーン接続します。

操作は、各プロジェクターに設定されているアドレス(プロジェクターに設定されているID番号)でプロジェクターを選択し、そのプロジェクターを操作します。(p10シリアル接続の設定参照)

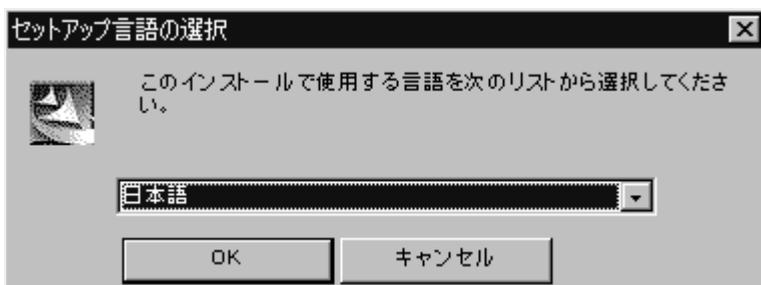


リアルカラーマネージャーを
インストールしたPC

■ソフトウェア (Real Color Manager Pro) のインストール

リアルカラーマネージャープロを操作するコンピューターにインストールします。

1. 付属のCD-ROMを操作するPCのCD-ROMドライブへ入れます。
2. Real Color Manager Proをクリックし、次にインストールするをクリックします。



3. ソフトウェアの言語選択画面が現れます。日本語を選択し、OKボタンを押します。
4. インストールが始まり、使用許諾画面が現れます。(注意：使用許諾はよくお読みください。) 承認される場合は「はい」のボタンを押します。
5. プログラムをインストールするホルダーを指定します。普段はそのままで、変える必要ありません。
6. インストールが完了すると、プログラムスタートアップにReal Color Manager Proが登録され、デスクトップにそのショートカットアイコンが現れます。

3. リアルカラーマネージャーの起動と環境設定

■リアルカラーマネージャーの起動画面と各部のはたらき

コンピューターのプログラムスタートのからReal Color Manager Proを選択します。
Real Color Managerが起動し、スタート画面が現れます。



リアルカラーマネージャースタート画面

プロジェクター一覧表示にチェックマークを入れると次ページ画面が出ます。

接続設定画面



リアルカラーマネージャー画面各部の名称とはたらき

名 称	はたらき
①一覧	接続登録されたプロジェクトの一覧を表示します。リスト以外の所でダブルクリックすると、アドレス設定の追加ウィンドウが開きます。登録リストの上でダブルクリックすると、アドレス設定変更ウィンドウが開きます。
②追加	プロジェクトのアドレス設定を追加します。
③変更	プロジェクトのアドレス設定を変更します。
④削除	一覧で選択したプロジェクトのアドレス設定を削除します。
⑤色味補正	一覧で選択したプロジェクトの色味補正画面を開きます。
⑥プロジェクト一覧表示	チェックを入れると、①の一覧に、接続登録されているプロジェクトの一覧が出ます。チェックを外すと、起動時の画面に戻ります。
⑦ガンマ補正	一覧で選択したプロジェクトのガンマ補正画面を開きます。
⑧設定	COMポートと、通信速度設定画面を開きます。
⑨終了	Real Color Manager Proを終了します。

■接続環境の設定

プロジェクターとの接続設定(シリアル接続)

1. スタート画面の「設定」ボタンをクリックすると、次のウィンドウが開きます。
2. シリアルに接続されているコンピューターのCOMポートを選択します。
3. シリアル通信の通信速度を選択します。
(通常は初期値19200から変更する必要はありません)
4. 設定後「OK」ボタンを押します。



プロジェクターとの接続設定 (シリアル/ディジーチェーン接続)

スタート画面のプロジェクター一覧表示にチェックを入れると、プロジェクター接続設定画面が出ます。この画面でシリアルの接続設定をおこないます。既にプロジェクターの接続が設定されている場合は、接続されているプロジェクターの一覧がでます。
(p8接続設定画面の①参照)

シリアル接続の設定（ディジーチェーン接続）

プロジェクター1台をシリアル接続する場合は、ここの設定は不要です。

1. 接続設定画面の[追加]ボタン②を押します。追加ダイアログ画面が現れます。
(p11追加ダイアログ画面参照)
2. シリアル②へチェックマークを入れます。
3. No. ①へプロジェクターの番号（任意）を入れます。複数のプロジェクターを管理する場合プロジェクターを分かり易くする為、各プロジェクターへ番号を付けておきます。
4. アドレス③を入れます。この番号はプロジェクターのID番号です。この番号はプロジェクターのメニュー操作で各プロジェクターへ設定します。プロジェクターのID番号が重複しない様に設定してください。設定範囲は1～64です。
設定の詳細は、プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。
5. メモ覧⑦に必要な応じてプロジェクターに関するメモを入れておくとう便利です。
6. [OK]ボタン⑩を押します。
7. 接続設定画面に接続登録したプロジェクターのリストが表示されます。

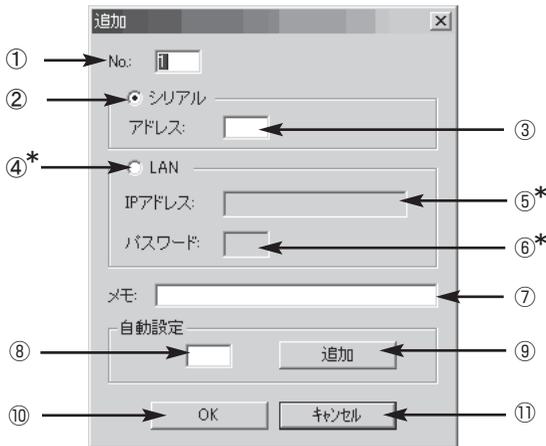
接続リストの自動作成

接続リストを自動作成することが出来ます。(例えば12台のリストを自動作成する場合)

1. No : ① に先頭となるプロジェクターのNo.を入れます。
2. シリアル②にチェックを入れます。
3. 先頭となるプロジェクターのID番号(1~64)をアドレス ③に入れます。
必要に応じ、メモを入れます。(同じメモが各プロジェクターに付されます。)
4. 自動設定⑧に自動生成するプロジェクターの台数を入れます。例では12となります。「追加」ボタン⑨を押します。12台の接続リストが作成されます。

注意：ここで作成されるリストは接続環境が完了しているものではありません。後で各プロジェクターのID番号と、このリストのID番号を合わせる必要があります。

追加ダイアログ画面



* ④、⑤、⑥は本モデルでは使用しません。

接続設定の変更

既に設定されている接続設定の内容を変更します。
接続設定画面の一覧画面①から、変更するリストを選択します。選択されたリストが色反転表示されます。
接続設定画面の[変更]ボタン③を押します。設定変更画面が現れます。入力は追加画面と同じ要領です。変更を入力し、[OK]ボタンを押します。

The image shows a dialog box titled "変更" (Change) with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following elements:

- A "No:" label followed by a small square icon and a text input field.
- Two radio buttons: "シリアル" (Serial) is selected, and "LAN" is unselected.
- Under "シリアル": An "アドレス:" label followed by a text input field.
- Under "LAN": An "IPアドレス:" label followed by a text input field, and a "パスワード:" label followed by a text input field.
- A "メモ:" label followed by a text input field.
- An "自動設定" (Automatic Setting) section containing a text input field and a "追加" (Add) button.
- At the bottom, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

4. 色味補正の調整

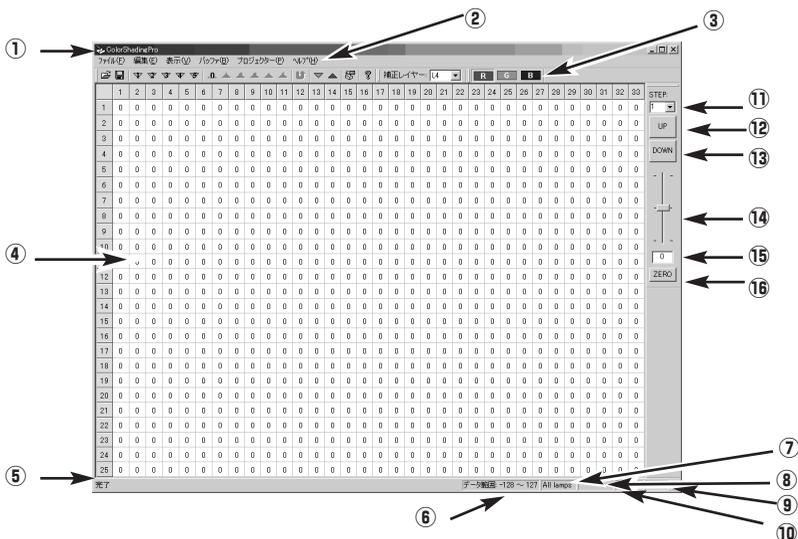
■色味補正の概要

プロジェクター内部に使われているR（赤）、G（緑）、B（青）の液晶パネルはパネル毎にその特性が異なります。このため、投影画面全体を一樣な色味で投影するために、プロジェクター内部の色味補正回路で補正を行っております。この色味補正調整は、このプロジェクター内の色味補正回路の調整をおこなうものです。

■色味補正の起動

1. プロジェクターの電源を入れ、映像が投影されていることを確認ください。
2. リアルカラーマネージャースタート画面で、プロジェクター一覧のチェックボックスにチェックを入れ、接続、登録されているプロジェクター一覧を出します。（プロジェクターが1台接続されている場合、チェックボックスを外します。プロジェクター一覧画面が閉じます。）
3. 一覧の中から色味補正をおこなうプロジェクターを選択します。（プロジェクターの登録表示が色反転表示します。）
4. 色味補正ボタン（p8接続設定画面の⑤参照）を押すと色味補正プログラムが起動し、色味補正調整画面が表示されます。
この色味補正調整画面の表示と共に、プロジェクターに保存されている色味補正データとモデル情報が色味補正プログラムへ取り込みが開始されます。
データ取り込みが完了すると、プロジェクターの補正データが色味調整画面に表示されます。（注意；補正データは各ランプの点灯モード毎にあります。取り込まれたデータは現在プロジェクターが点灯しているランプモードのもので。）
ここで、取り込まれたデータの保存を行っておきます。あとで補正内容を調整前に戻す必要があるとき必要となります。データは各ランプ点灯モード毎にあります。ランプ点灯を切り替え、プロジェクターを再起動させ、各ランプ点灯モードのデータを保存してください。データ保存は、「保存と呼び出し」（p19）を参照ください。プロジェクターの電源が入っていないと、「プロジェクターの電源をONにし、映像を確認したあとにデータを取得してください。」というコメントが出ます。色味補正プログラムの起動で取り込まれたデータは、後で述べる、バッファメモリーの“0”へ一時記憶されます。（p16）

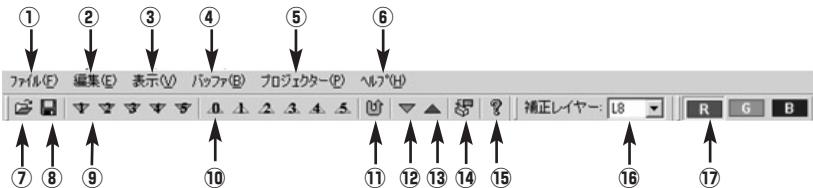
■調整画面各部の名称とはたらき



メニュー項目	はたらき
①タイトルバー	プロジェクター1台をシリアル接続した場合、「Color Correction Pro」と表示されます。デジチェーン接続で複数のプロジェクターを選択した場合、接続したプロジェクターの「プロジェクター番号-メモ-アドレス」と、Color Correction Proが表示されます。
②メニュー	メニューとツールバー参照 (p15)
③ツールバー	メニューとツールバー参照 (p15)
④セル	プロジェクターの画面領域を表示します。セルをクリックまたはドラッグして調整を行う領域を指定します。Ctrlキーを押しながら選択すると、複数の領域を選択できます。
⑤状態表示	ソフトの動作状況、ツールバーの説明などを表示します。
⑥データ範囲	色味補正数値のデータ範囲を表示します。
⑦ランプ	現在のプロジェクターのランプモードを表示します。
⑧投影しない	[プロジェクター(P)]で投影しないを実行すると「投影しない」と表示されます。
⑨リア投影	リア投影モードの場合は[リア投影]と表示されます。
⑩天吊り	天吊りモードの場合は[天吊り]と表示されます。

メニュー項目	はたらき
⑪STEP	UP、DOWN、及びマウススクロールで値を変更するときの値の変化量を設定します。一覧から選択、または数値を入力します。
⑫UP (+)	セルで選択されている範囲の値を、STEPの分だけ増加させます。
⑬DOWN (-)	セルで選択されている範囲の値を、STEPの分だけ減少させます。
⑭調整レバー	つまみを上下に動かして、セルで選択されている範囲の値を調整します。中心が0です。
⑮調整値	セルで選択されている範囲の値を直接指定します。
⑯ZERO	セルで選択されている範囲の値を0にします。

メニューとツールバー、そのはたらき



メニュー項目	はたらき
①ファイル (Alt+F)	[開く (O)]既存のファイルを開きます。/[上書き保存(S)]作業中のファイルを上書き保存します。/[名前を付けて 保存(A)]作業中のファイルに名前を付けて保存します。/[最近使ったファイル] 既存のファイルから最近の更新履歴のものを開きます。 [終了(E)]アプリケーション を終了します。
②編集(Alt+E)	[元に戻す (U)] 直前に行った編集状態に戻します。/[やり直し (R)] 元に戻すを取り消します。/[マウススクロール]マウススクロールによる数値の変更を有効にします。
③表示 (Alt+V)	[文字を大きく]セルの文字を大きくします。/[文字を小さく] セルの文字を小さくします。/[フォント]セルのフォントを変更します。/[背景色を表示]セルの背景色を変更します。/[セルの大きさ]セルの大きさ設定の選択します。[自動設定][変更可][固定]のメニューがあります。

メニュー項目	はたらき
④バッファ (Alt+B)	[バッファ1に記憶する]～[バッファ5に記憶する]編集集中のデータを一次保存します。/[バッファ0を読み出す]～[バッファ5を読み出す]バッファに記憶されたデータを読み出します。バッファ0はプロジェクターから読み出されたものが保存されています。
⑤プロジェクター (Alt+P)	[データ送信(W)]補正データをプロジェクターへ転送します。/[データ受信(R)]プロジェクターから補正データを取得します。/[出荷状態に戻す]プロジェクター内の補正データを工場出荷状態に戻します。/[ランプ]ランプ点灯モードの切替を行います。/[All lamps][Lamp 1][Lamp 2]等/[投影しない]シャッターのON/OFFを行います。/[リア投影]リア投影モードのON/OFFをします。/[天吊り]天井吊り下げ状態の設定をします。/[電源ON]プロジェクターの電源をONします。
⑥ヘルプ(Alt+H)	[Color Correction Proのバージョン情報(A)]ソフトウェアのバージョンを表示します。
⑦開く	ファイルを開きます。
⑧上書き保存	ファイルを上書き保存します。
⑨データ記憶1～5	作成したデータを一時的に保存します。
⑩データ読み出し0～6	保存した一時データを読み出します。
⑪元に戻す	直前の操作を取り消します。編集前の状態に戻すことができます。
⑫データ受信	プロジェクターから色味補正データを受信します。受信できないときはエラー表示がされます。
⑬データ送信	表示されている色味補正データをプロジェクターに送信します。送信できないときはエラー表示がされます。
⑭出荷状態に戻す	プロジェクターの調整を工場出荷状態に戻します。
⑮バージョン情報	Color Correction Proのバージョン情報を表示します。
⑯補正レイヤー	調整するレイヤーを選択します。
⑰調整色RGB (R,G,B)	調整する色を選択します。

* () 内はショートカットキーを示す。

■色味補正の調整のしかた

色味補正の調整は、以下の手順で行います。

調整に使用する信号：白の階調選択が出来るビデオ、またはコンピューター信号発生器等）を使用します。

色味補正データについて：色味補正の調整は、各ランプ点灯モード毎に行う必要があります。

補正データは各ランプモード点灯毎にあります。色味補正起動時取り込まれる補正データは現在プロジェクターが点灯しているランプモードのものです。

色味補正はそれぞれの輝度レベル毎に行われています。したがい、調整は投影画面の各輝度レベル毎に行う必要があります。調整が行われる各輝度レベルは以下となっております。

XGAでは 8 階層;L1(80%), L2(65%), L3(50%), L4(40%), L5(30%),
L6(20%),L7(10%), L8(5%)

SXGAでは 4 階層;L1(50%), L2(25%), L3(12.5%), L4(2%)

* プロジェクターの機種によってレイヤーの階層数、レベルが異なります。

輝度レベル（調整階層）の選択はツールメニューの「補正レイヤー」ボタンで選択します。「補正レイヤー」ボタンを押すと、その輝度階層の補正内容が調整画面に表示されます。

調整は以下の流れで行います。

[1. プロジェクターから補正データの読み出し。] → [2. 入力信号レベルをセット。] → [3. 編集画面ツールバーの [補正レイヤー] を2.の信号レベルに合わせる。] → [4. 投影画面で色味の確認。] → [5. 色むら箇所の調整] → [6. 送信] → [7. 画面確認] → [8. 4.~7.のくり返し] → [9. 2.~8.を繰り返し、各輝度レイヤーを調整する。] → [10. 各ランプモードで、1.~9.をおこなう。]

プロジェクターがスクリーンの背面投影になっている場合、メニューの [プロジェクター(P)] で [リア投影] を選択します。またプロジェクターを裏返しにし、天井つり下げで使用する場合、メニューの [プロジェクター(P)] で [天吊り] を選択し

ます。

調整

調整は、ランプの各点灯モード毎、また各点灯モードの各輝度階調毎に調整します。

1. はじめにプロジェクターの調整データを読み込みます。色味補正起動時に自動的に読み込まれたデータを用いるか、または、データの再取得を行って下さい。メニューの [データ受信] を押すと、受信が始まります。取得データは [ファイル(F)] [名前を付けて保存(S)] で保存しておきます。調整の後に元に戻す時などに必要です。
2. 投影画面で色味の位置、色味を確認します。
どの色が、また、どのエリアでむらが生じているか確認し、色味の位置が調整画面のセルのどの位置に該当するか確認します。
色味は各輝度階調で確認します。輝度階調に合わせ、ツールメニューの [補正レイヤー] もこの階調に合わせます。
3. 調整したい部分をマウスの左クリック、またはドラッグで範囲指定します。選択された範囲は青く反転します。選択を外したいときは、再度クリックまたはドラッグを行って下さい。
4. UP・DOWNボタン、スライダー、マウススクロール（有効に設定してある場合のみ）などで数値を変更します。調整内容はすぐに画面に反映されません。つぎの送信を行います。
調整データの一次保存：
調整途中の補正データは [バッファ1~5] に一時保存できます。保存場所のメニューボタンを押します。保存したボタンと同じ番号の [読み出しボタン1~5] が色表示されます。読み出すときはこのボタンを押すと編集画面に読み出されます。
5. メニューの [データ送信] ボタンを押します。調整画面の補正データがプロジェクターに書き込まれ、画面に反映されます。調整結果の確認をします。
6. 手順2.~5.をくり返し、画面全体が一樣な画面になる様に調整します。
調整が完了すると調整データをファイル保存しておきます。保存されるのは現在点灯しているランプモードのものです。
7. メニューの [プロジェクター(P)] [ランプ] でランプ点灯モードを変更します。各ランプ点灯モードで、1.~6.を実行し、各ランプモードの色味を調整します。

■保存と呼び出し※1

プロジェクターから取り込んだ補正データや調整したデータの保存を行います。保存と呼び出しは以下の手順で行います。保存されるのは現在調整画面に表示されているもので、現在のランプモードのもので、現在のランプモードのもので。

保存；メニューから [ファイル(F)] [名前をつけて保存(A)] を選択し、ダイアログボックスで、保存場所とファイル名を指定し保存します。

呼び出し；保存したデータを呼び出すときは、メニュー [ファイル (F)] [開く(O)] を選択し、呼び出したいファイルを選択します。セルに調整データが表示され、[データ送信] ボタンを押すと調整データがプロジェクターへ転送され、データが投影画面に反映されます。

■出荷設定

プロジェクターの補正内容を、工場出荷設定に戻すことができます。メニューから [プロジェクター(P)] で [出荷状態に戻す] を選択します。全てのランプモードの色味補正が工場出荷状態（工場で調整された状態）になります。

注意；工場出荷時の色味補正データはプロジェクターに保存されています。サービスでパネルを変更した場合、工場出荷に設定しても変更されたパネルは工場出荷レベルにはなりません。これ等は個別の調整が必要です。

■終了

メニュー [ファイル (F)] から、[終了(E)]を選択すると、色味補正が終了します

※1 Windows Vistaの中国語版のOSでは、保存と呼び出しが出来ないことがあります。

5. ガンマ補正の調整

■ガンマ補正の概要

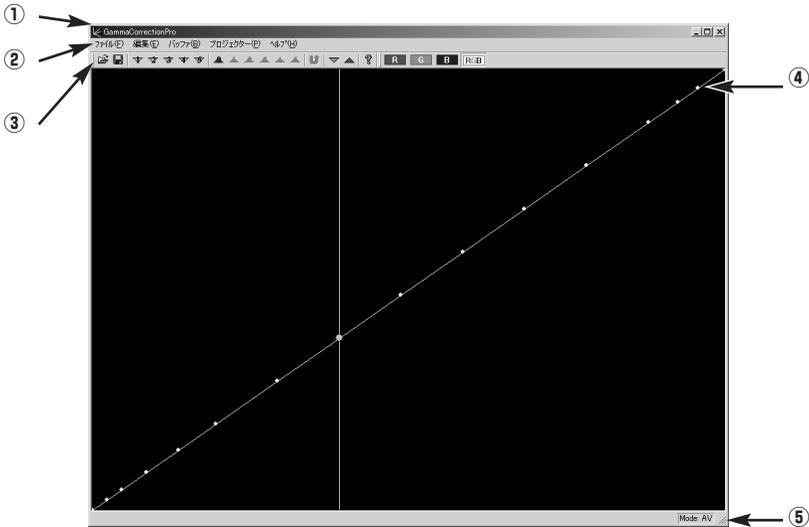
ガンマ補正調整はプロジェクターのガンマ補正データの調整をします。ガンマ補正の調整は、ビデオモード、コンピューターモードそれぞれでおこないます。データの送受信は同一のモードでしか行うことが出来ません。

■ガンマ補正の起動

1. リアルカラーマネージャースタート画面（p8接続設定画面の⑥参照）で、プロジェクター一覧のチェックボックスにチェックを入れ、接続登録されているプロジェクター一覧を出します。（プロジェクターが1台接続されている場合は、この操作は不要です。）
2. 一覧の中からガンマ補正をおこなうプロジェクターを選択します。プロジェクターの登録表示が色反転表示します。
3. ガンマ補正ボタン（p8接続設定画面の⑦参照）を押すと、ガンマ補正プログラムが起動し、ガンマ補正調整画面が表示されます。

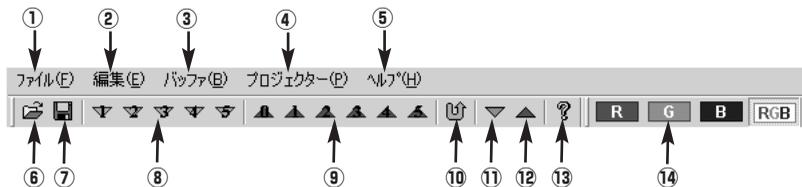
■ 調整画面各部の名称とはたらき（p21、22）、■ 調整のしかたを参照しガンマ補正の調整（p23、24）をおこなってください。

■ 調整画面各部の名称とはたらき



メニュー項目	はたらき
①タイトルバー	プロジェクター1台をシリアル接続した場合、[Gamma Correction Pro]と表示されます。デジチェーン接続で複数のプロジェクターを選択した場合、接続設定した[プロジェクター番号- メモ - アドレス]とGamma Correction Proが表示されます。
②メニュー	メニューとツールバー参照。(p22)
③ツールバー	メニューとツールバー参照。(p22)
④グラフ	ガンマ調整のグラフを表示します。プロジェクターから受信したガンマ補正情報は直線として表されます。
⑤モード表示	調整中のプロジェクターのモードが表示されます。

メニューとツールバー、そのはたらき



メニュー項目	はたらき
①ファイル (Alt+F)	[開く(O)]既存のファイルを開きます。/[上書き保存(S)]作業中のファイルを上書き保存します。/[名前を付けて保存(A)]作業中のファイルに名前を付けて保存します。/[最近使ったファイル]既存のファイルから最近の更新履歴のものを開きます。 [終了(E)]アプリケーションを終了します。
②編集(Alt+E)	[元に戻す(U)]直前に行った編集状態に戻します。/[初期化(I)]ガンマ調整データを初期値に戻します。
③バッファ (Alt+B)	[バッファ1に記憶する]～[バッファ5に記憶する]編集中のデータを一次保存します。/[バッファ0を送信する]～[バッファ5を送信する]バッファに記憶されたデータをプロジェクターへ送信します。バッファ0はプロジェクターから読み出されたものが保存されています。
④プロジェクター (Alt+P)	[データ送信(R)]⑫に同じ。/[データ受信(W)]⑩に同じ。 [電源ON]プロジェクターの電源をONにします。
⑤ヘルプ(Alt+H)	[Gamma Correction Proのバージョン情報]を示します。
⑥開く	ファイルを開きます。
⑦上書き保存	ファイルを上書き保存します。
⑧データ記憶1～5	作成したデータを一時的に保存します。
⑨データ送信 0～6	保存した一時データを送信します。投影画面が変化すると共にグラフの表示も指定したバッファのデータに切り替わります。
⑩元に戻す	直前の操作を取り消します。

メニュー項目	はたらき
⑪データ受信	プロジェクターからガンマ補正データを受信します。受信できないときはエラー表示がされます。
⑫データ送信	表示されているガンマ補正データをプロジェクターに送信します。送信できないときはエラー表示がされます。
⑬バージョン情報	Gamma Correction Pro のバージョン情報を表示します。
⑭調整色、G、B RGB	調整する色を選択します。RGBが選択されているときは、全色RGBのグラフが同調して調整されます。

※()内はショートカットキーを示す。

■ガンマ補正の調整のしかた

調整は以下の手順で行います。

- 調整を行うプロジェクターで調整の元となる映像（コンピューター、またはビデオ）を投影します。（ガンマ補正の調整は、ビデオモード、コンピューターモードそれぞれでおこないます。）
- ガンマ補正を起動します。プロジェクターがディジーチェーン接続されている場合、立ち上げ時、Real Color Managerスタート画面で調整するプロジェクターを指定して起動します。
ガンマ補正画面が立ち上がると、プロジェクターに保存されているガンマ補正データをガンマ補正プログラムへ取込みを開始します。データが受信されると、補正調整画面にプロジェクターのガンマ補正がグラフで表示されます。このデータはデータ送信バッファ0に自動的に保存されます。
プロジェクターに電源が入っていないと[プロジェクターの電源をONにし、映像を確認したあとにデータを取得してください。]というコメントが出ます。
メニューツールの[データ受信]ボタン⑪を押すと、プロジェクターの調整データを呼び出します。[データ受信]ボタンでの調整データの呼び出しは、送信バッファ0には保存されません。
プロジェクターとの通信が出来ず、プロジェクターからガンマ補正データが取得出来なかった場合、エラーダイアログが現れます。
編集のまえに一度メニューの [ファイル(F)] [ファイル名を付けて保存(A)] で保存ください。あとで編集前に調整を戻す場合必要となります。（ガンマ補正データはビデオモード、コンピューターモードはそれぞれにあります。受信データは現在投影されているモードのデータが受信されます。）

- 調整の基準となるプロジェクター以外のモニター画面等と、プロジェクターの投影画面を見比べながら画像再生曲線カーブのスポット位置をドラッグし、調整します。画像再生カーブは、R、G、B個別に調整できます。
Rの再生カーブを変更する時はRの調整色選択ボタンを押し、カーブ状の調整スポットをドラッグし、再生カーブを変更します。G、Bも同じ要領で行います。R G Bの調整色選択ボタンを押すと、R、G、B同時に変更することが出来ます。ガンマ補正変更内容の投影画面への反映はつぎのデータ送信を行うと反映されます。
- ツールバーの[送信]ボタンを押します。編集画面のガンマ補正データがプロジェクターに書き込まれ、補正内容が投影画面に反映されます。
調整データの一次保存；編集途中の内容はバッファへ一次保存できます。メニューの [バッファ保存(1～5)] を押すと記憶されます。ここに記憶すると、記憶番号に相当するツールバーのバッファ送信ボタンが色反転します。メニューの [バッファ送信 (0～6)] ボタンを押すと、バッファの補正データがプロジェクターへ送信され、バッファの調整内容が投影画面へ反映されます。

[編集メニュー(E)]の[初期化(I)]は、編集画面のグラフが直線に戻り、バッファ0～5のデータは消去されます。

手順3、手順4.をくり返し、希望する画像が再生出来る様、ガンマ補正を行います。プロジェクターに書き込まれたガンマ補正データはプロジェクターの電源を切っても、プロジェクターに記憶されています。

■保存と呼び出し

プロジェクターから取り込んだ補正データや調整したデータの保存を行います。プロジェクターはビデオモード用、コンピューターモード用のデータがそれぞれ別に設定できるようになっています、データを保存する場合はモードが識別できるようなファイル名をつけて保存ください。

保存と呼び出しは以下の手順で行います。

[ファイル (F)]メニューの[名前を付けて保存(A)]を選択します。ダイアログボックスで、保存とファイル名を指定し保存します。

保存したデータと呼び出すときは、[ファイル(F)]メニューの[開く(O)]を選択し、呼び出したいファイルを選択します。調整画面に調整データが表示され、ツールバーの[データ送信]ボタンを押すと調整データがプロジェクターへ転送され、データが投影画面に反映されます。

■終了

ファイルメニューの[終了(E)]を選択すると、ガンマ補正が終了します。

商標について

- Microsoft® とそのロゴ、Windows®、Windows® XP、Windows Vista®、Windows® 7 は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では®や TM マークは明記していません。

ご注意

- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品のソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

パナソニックプロジェクターサポートセンター

お電話の方はこちら **0120-872-601**

受付時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）

9：00～12：00 13：00～17：00

URL：<http://panasonic.biz/projector/>

※ 書面や電話／FAX を使用しお答えする場合は、返事をさしあげのお時間をいただくこともございます。

※ お電話いただく際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようおかけください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社および関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくときのために、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 プロジェクタービジネスユニット

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号